
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 380 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.07.10（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1025 部*****

<第 41 回総会・第 39 回山崎記念農業賞のご案内>

1、日時：7月25日（土）13：00～17：00

2、場所：NTC コンサルタンツ会議室

東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー20F

地下鉄：東京メトロ丸ノ内線 中野坂上駅下車

中野坂上交差点方面改札～1番出入口、交番のある一画

3、第 41 回総会・第 39 回山崎記念農業賞

(1)開会挨拶 13：00～13：10

(2)山崎記念農業賞表彰式 13：10～13：50

受賞者：手づくり百人協同組合 理事長 増野いつ子氏

<http://www.461888.jp/ownerInformation.html>

(3)講演 13：50～14：50

コモンズ 代表 大江正章氏

近著『地域に希望あり——まち・人・仕事を創る』（岩波新書）

<http://www.amazon.co.jp/dp/4004315476>

(4)総会 15：10～15：50

(5)授賞者講演 16：00～17：00

4、意見交流会&懇親会

受賞者を交えての自由な意見交換会 参加費：4000円

参加申し込み：参加希望者は事前に下記へご連絡ください。

会員外の方 会員外の方 会員外の方 も参加できます。

TEL：03-5333-2051（益永）

e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

正念場にある TPP 交渉——実効ある国会審議に向けて 小泉浩郎

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<イベント案内> 日本農業普及学会 EX セミナー

農民になった普及員と語る (08/01)

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 軽んじられる国民

<巻頭言> 正念場にある TPP 交渉——実効ある国会審議に向けて

アメリカの大統領貿易促進権限 (TPA) が、上下両院で可決 (6 月 29 日)、それを契機に TPP 交渉は 7 月合意に向け急加速、安部首相は「アメリカと共にリーダーシップを発揮、早期妥結を目指す」と正念場を迎えている。

そのスケジュールは、7 月 9~10 日：日米 2 国間協議、7 月 24~27：主席交渉官会議、28~31 日：国閣僚会議と一気に加速に進め、大筋合意が得られれば 10 月末から 11 月に参加各国の協定書署名としている。来年秋の大統領選を控えるアメリカ、そして日本は、来年 7 月の参院選前の通常国会での承認を目途に日米双方の政治事情にだけで事が進んでいる。

時間はない。これまで以上に「国会決議を守れ」を連呼、秘密裡にされている内容を少しでも多く引き出し追求の手を緩めないこと、そして、最後の頼みは国会である。自民党の選挙公約、衆参農林水産委員会の国会決議の各項目の検証と我々有権者には「……脱退も辞さず」とした各国会議員の覚悟を質す手段が残っている。

だが、国会審議という最後の頼みの綱は、現状の通説のままでは、極めて脆弱である。国会での国際間の条約審議は、「条約それ自体」でなく「条約の締結の承認」であって、条約本文は「付属資料」で議決対象となっていないという。これまでの国会で条約そのものを修正議決した、或は修正を希望する旨の決議を行った事例はない (立法と調査 2012.7 No.330) とされている。

TPP 条約の審議は、現状では、これまでと同じ土俵に上ることになる。そこでは「数の論理」と「国際信義」を盾に内容を問わないまま「一括承認」とな

る可能性が高い。政府間交渉で確定した後でその内容を知り、その条約を承認するか否かだけの判断しか問われない国会は、はたして国民の代表たる役割を果たすことになるのか。聖域（死活的問題）は守ると選挙公約、国会決議した TPP の国会審議は、これまでの条約審議の通説を抜本的に変え、国民が納得する審議方法の選択が必要である。法案審議の段階でもめる前に今から準備すべきであろう。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流までの歩き継ぎを思い立ったのは 70 歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた…」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに 1 日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは 140 キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には 300 キロ以上歩いたという。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中

用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通3年説）」についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第1部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第2部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間の関係を今日的な視点から総合的に捉えなおすうえで格好の書。

◎山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5判・並製・199頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995年）、『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004年）、『農地工学』（共著、文永堂出版、2008年）、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

<イベント案内> 日本農業普及学会EXセミナー
農民になった普及員と語る (08/01)

期日：平成27年8月1日(土)

場所：埼玉県川越市

エクスカージョン：落合農園及び三富開発ほ場視察

シンポジウム：福原公民館

シンポジウムの座長解題は宇根豊(農と自然の研究所代表)氏が行ないます。

開催要領・参加申し込み・集合場所周辺地図は

http://www.jadea.jp/gakkai/sub04_1.htm

からご覧ください。

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.135』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

「耕」について考える◎塩谷哲夫

[第149回定例(現地)研究会] 家族協定による畜産業経営

農業を守り暮らしに生き甲斐を◎小泉浩郎

[報告1] 生活改善普及活動と家族経営協定◎阿久津加居

[報告2] 家族経営協定で酪農経営の複合化

——酪農・教育ファーム・牧場カフェ◎人見みゆ子

参加者の声◎樋口直美／小林俊夫／熊澤喜久雄／服部朋子／益永八尋

[第150回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

I 溪流保護から見る土石流災害と砂防問題◎田口康夫

[特別寄稿]

・土砂災害にみる災害リスクの回避についての考察◎渡邊 博

- ・広島市土砂災害から森林問題を考える◎大内正伸
- ・キューバの防災対応◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(6)

百姓仕事の精神性—情愛からタマシイの世界への道／宇根 豊

〈農村定点観測〉

- ・語りつぐシルバーへの途（みち）／茨城県・大河原幸一
- ・「飽食の時代」に思う／長野県・橋戸良知
- ・飼料用米、本格生産の課題／新潟県・吉原勝廣

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見きみ子さん（阿久津加居聞き書き）

<編集後記> 軽んじられる国民

「絶対です」という言葉をこの国の首相からなんど聞いたことか。あるいは国会での「はやく質問しろよ！」というヤジ。与党幹事長からは最近、安保関連法案について「議論はほぼ出尽くしてきた。出口をみつけていく時期だと思う」といった趣旨の発言があった。

なんなのか、と思う。憲法学者のうち、この安保関連法案は違憲であるとする学者の数が圧倒的に多数であり、新聞の世論調査では、安保関連法案について説明不十分であるとする人の割合が8割におよんでいる（毎日新聞、2015/07/06）。あるいは、地方議会では300を超える反対・慎重の意見書の決議（反対144議会、慎重181議会）があり、それに対して賛成は6議会だとか（朝日新聞、2015/07/09）。

この落差に目がくらみそうになる。国際状況の変化は認めたにしても（それにしては外交の低迷はあるが）、今国会で可決を求める声はけっして多数派ではない。

一方でTPPは巻頭言にもあるように、アメリカにおけるTPA可決により急進展しようとしている。しかしこのうごきを支えているのは、アメリカの大統領選と日本での来年7月の参院選前の通常国会承認、つまり政治の、もっといえば現政権の都合でしかない。TPPがなぜいま必要なのか。わたしはいまに至るまで説得的な説明は聞いたことはない。聞こえてくるのは、「流れにのらないと…」ぐらいのものだ。

国会前では若者たちが声をあげはじめた。いくつかの特徴的なフレーズがあってそのうちのひとつが「国民なめんな」である。けっして上品な言い回しではない。が、国民主権といいながら、ここまで軽んじられている国民は世界的にみても稀ではないか。

2015年07月10日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)
グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 381号の締め切りは07月21日、発行は07月23日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第380号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.07.10（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

*****ここまで『電子耕』*****